

文学者の戦争協力

神子島 健(かごしま たけし)



戦時期の日本文学史のもっとも有名な一コマのひとつ

『東京朝日新聞』
1938年8月27日夕刊



文士聯隊を編成

廿二氏を選抜決定

聖職下、銃後の文壇に大きな波紋を掻き出した内閣情報部の文藝動員、二十七日朝内閣情報部において、内閣情報部川面書記官、陸軍省新聞班松村中佐、海軍省軍事普及部松島中佐などが中心つと

二十五日菊池寛氏から提出された從軍希望の作家の顔觸れについて協議を重ねた結果、左の二十二氏が決定した

菊池寛、久米正雄、吉川英治、白井喬二、吉屋信子、佐藤春夫、川口松太郎、北村小松、杉山平

助、岸田國士、片岡謙兵、林芙美子、小島政二郎、尾崎士郎、瀧井孝作、富澤有爲男、中谷孝雄、丹羽文雄、深田久彌、濱本浩、淺野晃、佐藤惣之助

この選ばれた二十二人の文藝部隊がいよいよ来月上旬陸海軍二班に

里村欣三氏戦死



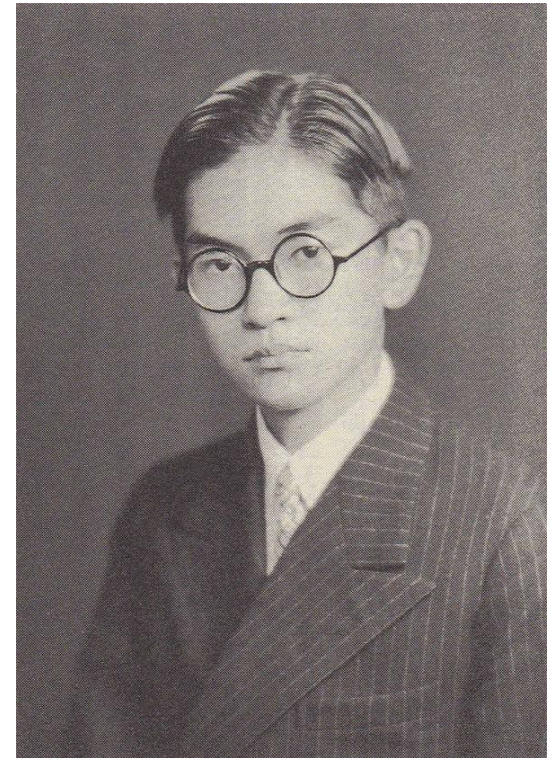
「ルソン前線基
地報道班員一日
突」昨年十二月
末以於確信の比

島殿線に従軍してゐた作家里村欣
三氏は二十三日十五時三十分第一
線でペンをにぎつたまま従軍作家
として最初の壮烈な戦死を遂げた
戦死の當日は第一線に出動中の
某部隊本部を訪れてリンカエン
殿線の華、西村大隊長の最後の
戦況報告書を書寫中、敵機九機
の爆撃を受け頭部の破片創傷によ
り腹部の激風による内部出血によ
り「部隊長職責に相すまぬこと
をいたしました、必ず書きます」と
いつたまゝ壮烈な戦死を遂げた

一 租 四 三 五 船 船 船 船

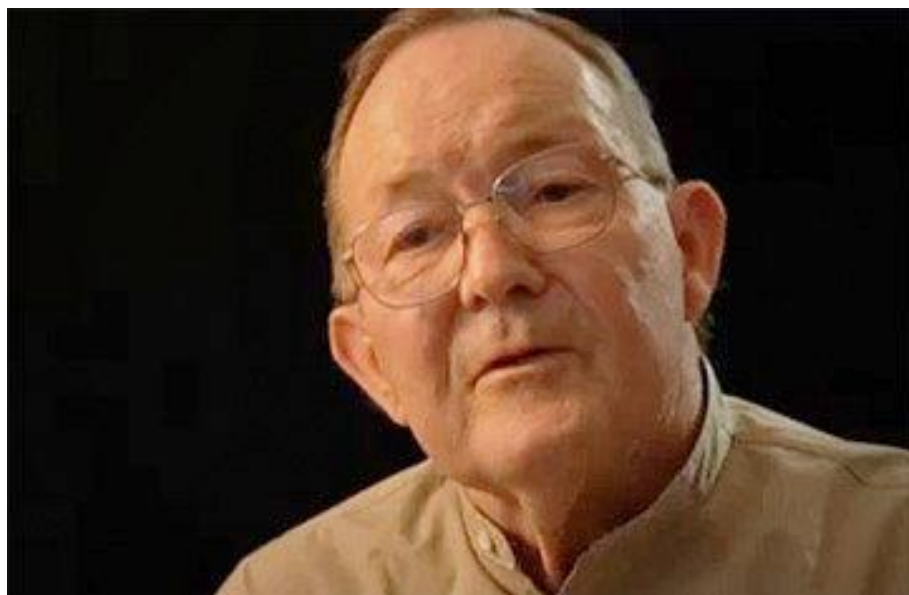
『朝日新聞』
1945年3月3日夕刊

1. はじめに

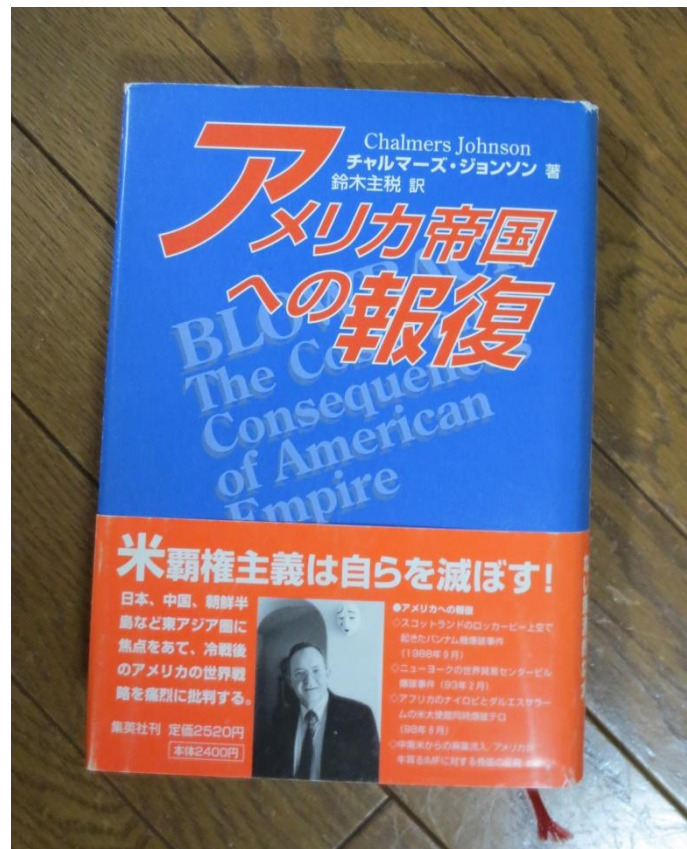


鶴見俊輔、17歳の時

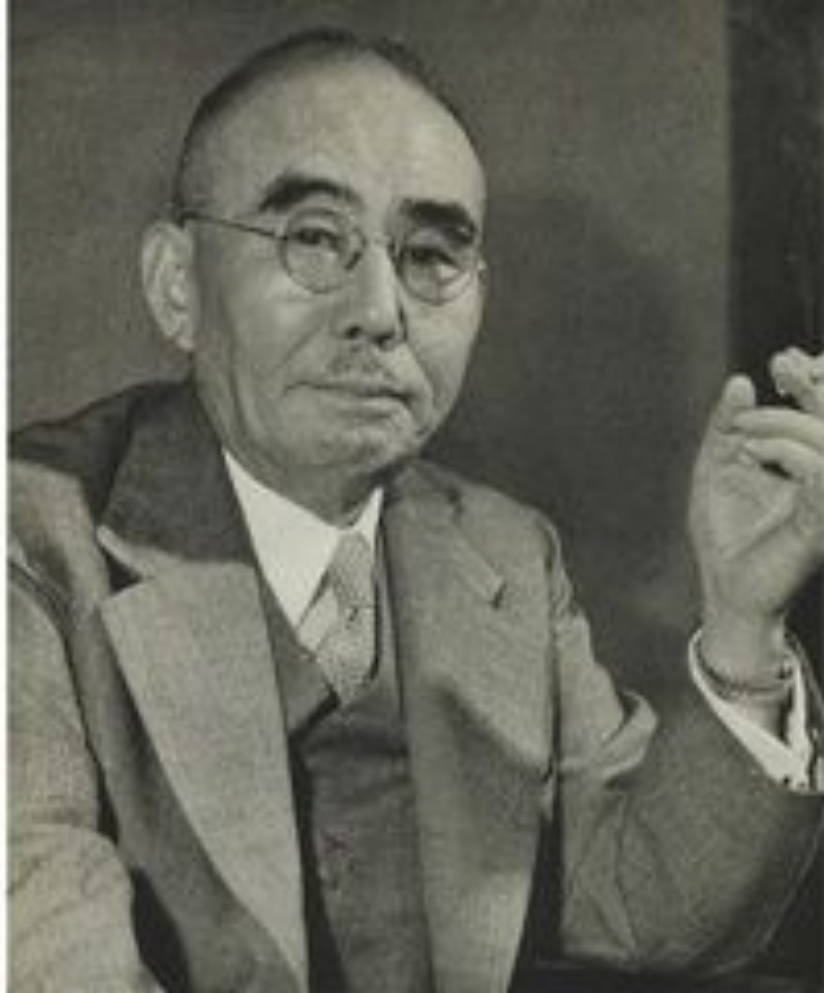
1. はじめに



チャルマーズ・ジョンソン



2. 「満州事変」後の戦争報道から



石橋湛山

2. 「満州事変」後の戦争報道から

愛国心の再定式化(ルイーズ・ヤング)

「肉弾三勇士」



Bronze Statue of the Three Human Bullets (Greater Tokyo)

像銅の士勇三弾肉烈忠奉の國 (京東大)



2. 「満州事変」後の戦争報道から



『文芸春秋』社長であり作家であった菊池寛

3. 盧溝橋事件前後の言論と作家

大運河渡河軍

〔員派特兩山澤・倉小〕

天元の

徐州戦大運河の裏には二ヶ月に亘つて官兒莊、胡山の線に於て捨石となつて戦ひつゝあつた

〇〇部隊の甜めた辛酸が特に大きな役割を果したことを忘れてはならない、所謂徐州會戦

は表面にはこの十数日間の華々しい包圍戦に終結したかの感があるが、事は〇〇部隊が大運河北岸地区に進出した時を以て既に大會戦は開始されたのである、宛る徐州の山はこの戦線に於て過ぎたといつても過言ではなからう

所屬、臨城、韓莊、嶧縣等津浦線を蔽竹の勢で席巻した福榮、赤榮、谷口、各部隊が一齊に大運河の線に進出したのは二月下旬であつた、敵は我軍を劣勢と見るや徐州及びその後方より大きな兵力をこの正面に集結して来た

この臨を北方に撤退し且臨城の線に進出を阻害するため一連の激戦

近に移つたことがあつた、この作戦的計畫に對し敵は戦勝と宣傳し更に漢口、廣東方面からも廣々この方面に

兵力

を増加して約五箇師

の大軍を集中した、〇〇部隊はこれを一気に激減すべく四月十八日より溜田、西大條、赤榮、福榮、谷口、桑田、翁歸その他全力を擧げて攻勢に移つた、敵はこれに陣易して尙も兵力を増加して防戦に努め彼我の兵力は六十師一といふ比に達した、この大軍を何ふに對して〇〇部隊が悲戦苦闘を續けて歸つ裡に我軍では暫々徐州大包围戦の態勢が整へられて固たのた敵兵力の過半がこゝに集中して居たため中文、南文は殆どがら空きの状態となつて完全に我軍の術策に陥つたのであつた、旋風の如く徐州を甜め盡した我軍快勝の基は實にこの〇〇部隊の忍苦に負ふものといはねばならぬ

敵多の野兵が戦い喰ひとなつて散つたが、その死は何よりも大きな

当時の戦場についての報道例 『東京朝日新聞』1938年5月24日朝刊

3. 盧溝橋事件前後の言論と作家

『東京朝日新聞』
1937年7月12日朝刊

舉國一致の結束成る 政府の方針遂行に協力

政府は十一日の閣議で北支事態に際して急務政府の根本方針を定めてこれを中外に表明したが政府としては眞に舉國一致、結束せる國力の下に右方針の遂行を期する。閣議で言論機關代表、貴衆兩院議員、財界代表三方面の協力を期すべく各方面の代表の集議を多かり、政府としては眞に舉國一致の結束成る。閣議で言論機關代表、貴衆兩院議員、財界代表三方面の協力を期すべく各方面の代表の集議を多かり、政府としては眞に舉國一致の結束成る。閣議で言論機關代表、貴衆兩院議員、財界代表三方面の協力を期すべく各方面の代表の集議を多かり、政府としては眞に舉國一致の結束成る。

新聞、通信社側

政府は十一日午後九時、百官に閣議の要旨を通告し、閣議代表の集議を期すべく各方面の代表の集議を多かり、政府としては眞に舉國一致の結束成る。

貴衆兩院代表側

次いで政府は十一日午後九時半から閣議に出席し、閣議代表の集議を期すべく各方面の代表の集議を多かり、政府としては眞に舉國一致の結束成る。

財界も協 爲替、公債

十日閣議の要旨を閣議代表の集議を期すべく各方面の代表の集議を多かり、政府としては眞に舉國一致の結束成る。

3. 盧溝橋事件前後の言論と作家

産業、雑誌界の

代表と懇談

けふ午後首相官邸で

政府は十三日の定例閣議終了後正午より産業界代表を午後三時より雑誌界代表を夫々首相官邸に招き近衛首相ほか全閣僚出席して時局につき懇談することとなつたが、その願は左の通りである

産業界代表

鮎川義介△

津田信吾△南條金雄△小倉正恒

△三好重道△平生飢三郎△松本健次郎△藤原銀次郎△橋本圭三郎△野口蓬△森巖昶△池尾芳蔵△深尾隆太郎△安川雄之助△加藤恭平

雑誌界代表

中央公論社

長鳴中雄作△改造社長山本實彦

△日本評論社長鈴木利貞△文藝春秋社長菊池寛

『東京朝日新聞』
1937年7月13日朝刊

3. 盧溝橋事件前後の言論と作家

◎陸軍省令第二十四號

新聞紙法第二十七條ニ依リ當分ノ内軍隊ノ行動其ノ他軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ禁ズ但シ豫メ陸軍大臣ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年七月三十一日

陸軍大臣 杉山 元

〔参照〕

明治四十二年五月六日公布 法律第四十一號 新聞紙法抄

錄

第二十七條 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙

ニ對シ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

『官報』

1937年7月31日

3. 盧溝橋事件前後の言論と作家



戸坂潤



三木清

3. 盧溝橋事件前後の言論と作家

THE TOKYO ASAHI SHIMBUN (日曜日) 日九十月七年二十和

北支事變と國民總動員

戦争小説 時局と認識

明治元年 勝沼戦記
 戰場 勝沼
 村山知義

北支事變の経緯

太田宇助
 抗日支那の感觸 高木陸郎
 北支事變の感觸 河野密
 支那を膺懲すべし 赤松克彦
 支那中將論 古田徳郎
 冀察政權の人々 大山一郎
 二十九軍と中央軍新見 治

時局と認識

山川均
 内閣近衛
 待望金
 風送現
 帶送現
 關近衛
 待望金

試練期のロシア

代時論 言 術
 制統論 言 術
 題 問 院

航空座談會

日本の次代を造る人々 著名者レレリ詳論
 貴院改革問題 黒田 豊新 全議 主 議 院 議 員
 ソ満國境問題 田中 重吉 近衛 内閣 行 進 曲
 瀋山思想會議 田中 重吉 近衛 内閣 行 進 曲
 フリードリヒ大王 尾崎 士郎 尾崎 士郎
 美濃部博士訪問記 青野 季吉
 河上博士の近況 鈴木 安藏

花は如何にして開いたか

支那青年
 將校の手記

北支事變

北支の
 今後は如何に
 諸君の如何に
 打診に懸け!!

改造

蘇支問題 別冊附録
 別冊附録
 北支事變の経緯 高崎 藤村
 北支事變の経緯 高崎 藤村
 北支事變の経緯 高崎 藤村

裏切られた革命

附別冊
 裏切られた革命 完ト口
 準時經濟と國民生活 阿部 勇
 法律時論 歐洲に於ける戦争の危機
 未川 博

赤軍論

一國社會主義論 向坂 逸郎
 赤軍論 甲谷 悦雄
 現實の蘇聯と日本
 巡禮 高崎 藤村
 帝國藝術院
 陸軍若返
 やくき話耳袋
 子母澤 寛

『東京朝日新聞』
1937年7月19日朝刊

3. 盧溝橋事件前後の言論と作家



榊山潤(1940年ごろ)

3. 盧溝橋事件前後の言論と作家



3. 盧溝橋事件前後の言論と作家



石川淳

4. 「生きてゐる」兵隊と「麦と兵隊」

石川達三 『生きてゐる兵隊』	火野葦平 『麦と兵隊』
一作家として、占領後の南京を取材	軍人として、報道班員の立場から取材
彼らを取り巻く状況や内面を含めてフィクションならではの作品を描こうとした	兵士たちの視点ならではのリアリズム

4. 「生きてゐる」兵隊と「麦と兵隊」

石川達三

(1905-1985)

第一回芥川賞受賞
(1935年)

『結婚の生態』

をはじめ、

『風にそよぐ葦』『人間の壁』など、数々のベストセラーを世に出した。



所
感

石川達三

名譽ある芥川文藝賞を受けるに當つて私は何とも言へない一種の逡巡を感じる。それは自分の作品に自信が持てないからであらう。又、息苦しい様な責任の重さを感じる。故芥川氏の名を辱しめないだけの仕事をしなければならぬ義務を負うたのであるから。

今後どれ程の立派な作品を創る事が出来るか、自分では内心甚だ忸怩たるものがあるが、俊才芥川氏の後塵を拜して、淺學非才の自分はたゆまざる驍馬の努力をして行きたいと思ふ。(八月十日)

4. 「生きてゐる」兵隊と「麦と兵隊」

「生きてゐる兵隊」発売禁止

『朝日新聞』

1938年2月19日朝刊

中央公論を發禁

『生きてゐる兵隊』等忌諱に觸る

日本評論も一篇削除

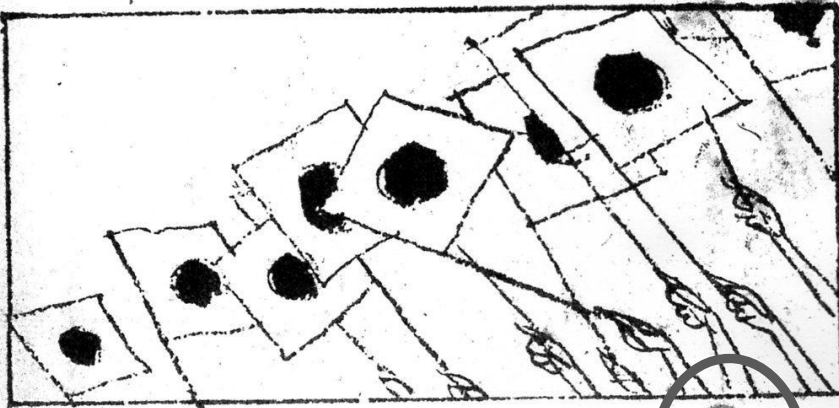
非常時局の下に出版物の禁止処分は相當の數に上つてゐるが、三月號の發行を前に十八日中央公論の發賣禁止並に日本評論の一部削除が内務省から通達された、中央公論では同誌から南京に特派された

石川蓬三氏の長篇小説「生きてゐる兵隊」が當局の忌諱に觸れて、新報紙法第二十三條により發賣禁止の處分となつたもので、日本評論は「大内兵衛その他」と題する大場賢一氏の評論一篇

が削除を命ぜられた、中央公論では取敢ず指摘されたものを全部削除して發行すべく當局と交渉の結果近日發賣を許される模様である

『中央公論』

1938年3月号



生きてゐる兵隊

石川 達三

（前記）日支事變については軍略その他未だ發表を許されないものが多くある。従つてこの稿は實戦の忠實な記録ではなく、作者はかなり自由な創作を試みたものである。部隊名、將兵の姓名などもすべて假想のものとして承知されたい。

1

高島本部隊が太沽に上陸したのは北京陥落の直後、大陸は恰度殘暑の頃であつた。汗と埃にまみれた兵の行軍に従つておびたゞしい蠅の群が輪を描きながら進んで行つた。

それから子牙河の兩岸に沿うて敵を追ひながら南下すること二ヶ月、石家莊が友軍の手に落ちたと聞いたのはもう秋ふかい霜が哨兵の肩に白くなる時分であつた。

高島本部隊は寧晋の部落に部隊集結して次の命令を待ちながら十日間の休



4. 「生きてゐる」兵隊と「妻と兵隊」

抜粋1

捕虜斬殺のシーン(実際に当時、当たり前のように行われていた)

編集部は主に、**人数(13人)**や、**具体的に斬る場面**を伏字処理とした。

抜粋2

業者が国内から中国へ**「慰安婦」**を連れて行くシーン

人数や「女たち」といった言葉が削られているが、**普通に読めば文脈で分る**内容となっている。

4. 「生きてゐる」兵隊と「麦と兵隊」

火野葦平(1906-1960)

1937年9月、召集されて入
営する直前に短編「糞尿譚」
を書き上げる。

1938年2月、占領地の杭州
に滞在中、「糞尿譚」で芥川
賞受賞の知らせを受ける。

『東京朝日新聞』1938年2月12日



芥川賞?!一升奢るッ 葦平伍長殿は股火鉢

西湖畔にペンの凱歌

なといふ氣持はしましたわ、ハ
ツハツハツ、原稿は友達に
渡したまへ、後はどうなつたかも
う殆ど忘れかけてゐましたよ、
彈丸の下でそんなこと氣にかけ
ちや鐵砲が當りませんよ、生れ
て初めての戦争、杭州艦に上陸
してから五ヶ月の生活は實に口
で言へない程辛い貴重な體驗で
した、一生忘れませんよ、生命
の恐怖といふやつは想像してゐ
た程大したものぢやないですわ
十一月杭州艦の南沙に上陸した
時初めて彈丸を被りましたが別
に恐くなかつたですな、何の種
動物もない淺灘を渡茶々々岸
へ突進したけれど彈丸が耳の脇
をしゆつしゆつと來てすぐ自分

十坪のベトン式トーチカに部下
〇名を斃らして
肉彙で、突撃氣鼓をか
ら手榴弾七つを打ち込んで三十六
人の敵を生捕にした玉井君の勇
猛よりは片岡隊長も舌を巻いた
ものだ、玉井伍長は「今朝着いた
んですよ、見て下さい」と腰しま
にたまらないやうな眼を凝めて記
者に手紙を見せた、友達の詩人龍
野吉君(小倉市魚町一丁目廣田屋
の若主人)からである、それには
かう書いてある
二つや三つと、今直に用事安形

4. 「生きてゐる」兵隊と「妻と兵隊」



1938年3月、文藝春秋社から小林秀雄が派遣され、「陣中授賞式」が行われる。日中戦争期の文学を象徴するエピソードの一つ。

4. 「生きてゐる」兵隊と「麦と兵隊」

1. 日本軍が負けている所を書いてはならない。
2. 戦争の暗黒面を書いてはならない。
3. 戦っている敵は憎々しくいやらしく書かねばならない、敵国の民衆を書く場合も同じ。
4. 作戦の全貌を書くことは許されない。
5. 部隊の編成と部隊名は書けない。
6. 軍人の人間としての表現を許さない。
7. 女のこと(兵士にまつわる恋や性の問題)を書いてはならない。

(以上は参考資料に記載)

火野葦平(写真は『麦と兵隊』より)



4. 「生きてゐる」兵隊と「妻と兵隊」

抜粋1

戦場での**兵士たちの日常**を捉える

抜粋2

孫圩での激しい戦闘に巻き込まれ、生き残った後の家族への思い(**戦地と銃後をつなげる**テキスト)



○伏魔の晴 ○新長 ○曇 ○雨 ○雪 ○雷
 ○霧 ○電雷 ○知雷 ○黄砂 ○風塵 ○吹雪
 不運風線 三陸雨風線 太平洋風線

の雨は晩 晴後曇風の雨 方地東歐
 晴風
 大時氣天、真の勝雨風の雨 方地東歐
 うらあが河蝦

岡市 【岡市電】
 二十日岡市
收容 地方機務局
 岡岡市長河内卯兵衛
 強制收容された

周年

福太郎氏を失った若
 婦人
 悲しみの涙新な
 話が盡きなかつた

の申込

各省の復讐で、愈々来る
 東京帝國大學で賑か
 選擧も既に殆ど成つ
 二十日午後五時から本社
 諸氏及び主催者側が
 の打合せを行ふ事下

聞かれた諸氏はいづれ
 御みたる位どりの備

強引に三原
 山へ飛込む
 二十日午前
 十時半頃三
 原山噴火口附近の橋を越え
 火口に飛び込ま
 んとする洋殿安
 の青年を間瀬山
 案内人が見つけ
 火口寸前で抱き
 止めた所一人が
 自殺するに余計なお世話だ」と
 振り放さうとし兩人取組合となり
 両者の力が勝つて案内人が突き飛
 ばされた隙間に入り最期を遂げた
 元村の宿願により東京市瑞川區日
 暮里町三ノ三二四〇東京戦艦停一
 倉(三)と判明【東京真は一倉】



高尾山に青
 年の變死體
 二十日
 朝台附近山林中で變死體が發見さ
 れた。東京市荏原區戸越町八六九
 富山益致といふ名刺と省線川崎一
 戸越公園間のバスを所持しバスに
 は富山秀男(三)と記入してある
 右け戸越町八六九に母ま(三)と
 二人で住んでゐた川崎東電の
 職工富山秀男(三)である十日家
 出し母親が懸命に探してゐた



バスに跳られ
 二十日午
 後三時頃王子
 區上千條一三
 八三鐵上所敷
 工棟本秀之雄
 三三二女即子

一時戦死、行方不明を傳へられ
 た火野董平君は生きてゐた。彼
 は徐州大會戦の最前線に参加し
 九死に一生を得た。その血戦手
 記『**麥と兵隊**』(三百枚)を突如
 雑誌「改造」八月號に寄せた。
 戦闘のさなか、しかも一兵士の
 死に直面しつゝ綴つた血まみれ
 の戦争記録は世界にも稀に見る
 文學だ。かの「西部戦線」以上悽
 愴にして豪快、こゝに大陸建設
 の聖戦が生んだ新しいヒューマ
 ニズムの誕生がある。(「改造」八月號
 明廿二日發賣)

鼻科・眼科・整形外科
 診察時間午前八時正午迄
 午後二時正午迄
 日曜祭日モ右同様
 (入浴機) 東京牛込區大塚町二二四(大塚) 電話牛込三三一四
 (大阪出張) 大阪東區大塚町二二四(大塚) 電話東區三三一四
 大阪出張 三・三・五・七・九 十一月ノ第 二日 院方 電話東區二二四

便秘者に
 長壽者なし
 マチニコフ博士は
 斯く喝破せり

下劑は 晩のめば 朝通じよ

一五〇錠
 一〇〇錠

塩野製品
ラキサトル錠

4. 「生きてゐる」兵隊と「麦と兵隊」

抜粋3

中国の農民への愛着と、**そこに入り込んでいる**中国への蔑視(侵略の現状を肯定する)

抜粋4

日付、部隊などの基礎的情報以外においては**伏字(検閲)**の跡を**残さぬ**形で発表されたテキスト

重要な関連事項の年表

1931年9月18日 「満州事変」発生

1933年2月20日 小林多喜二の虐殺

1937年7月7日 盧溝橋事件発生

1938年2月18日 「生きてゐる兵隊」発売禁止

1938年7月22日「麦と兵隊」発表

1938年8月23日 内閣情報部、漢口作戦への作家の従軍を発表

1941年12月～ 作家・文化人たちの白紙徴用

1945年2月23日 被徴用の従軍作家、里村欣三、フィリピンにて戦死